

平成 26 年 7 月 4 日

# 南の風 69

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

インターハイ予選、東京都大会上位 4 チームリーグ戦を観戦しました。感想を書きます。

まずは結果です。優勝八雲学園（3勝0敗）、2位明星学園（2勝1敗）、3位東京成徳（1勝2敗）4位文化学園大杉並（0勝3敗）でした。東京は3位までインターハイに出場できます。

ご承知のように、優勝した八雲学園には、横浜のミニバスチームから育った選手がたくさん活躍しています。キャプテンでトップガードの曾根川選手（永田台ビーバース）、センターの高橋選手（ソサエティ Jr）、センターFの中島選手（ひかりが丘）、ガードFの浅野選手（東本郷）、さらにセンターFの吉田選手（横須賀根岸）を加えると、神奈川出身の選手が目白押しです。

八雲学園は、最終日2勝0敗同士の明星学園と優勝決定戦となりました。シーソーゲームとなりましたが、4Qで逆転した八雲学園が50対48で接戦を制しました。八雲学園の選手の皆さんそして関係者の皆様、おめでとうございます。インターハイでの活躍をお祈りします。

次に、八雲学園絡みのゲームを観ての感想です。

まず感じたことは、センターらしいセンタープレイヤーがいないことです。ペイントエリアで身体を張ってボールを受けるといった場面が極端に少なかったです。この南の風でも何回か触れましたが、オフェンスで大切なことは、中をどう攻めるかということと、外とどう合わせるかということです。これはバスケットボール競技において普遍的なことからです。もちろん中を攻めるというのは、ポストにボールを入れるだけではありません。ドライブ&キックのようにドライブで中を切り裂き、外に合わせるプレイもあります。（文化学園大杉並は八雲学園戦に、ドリブルロールからドライブ&キックを有効に使って攻めていました。）しかし、ペイントエリア内のポストにボールを入れて、ディフェンスを収縮させて攻める、あるいは外と合わせるプレイは、ディフェンスにとって最も守りづらいものとなり有効です。特にハイポストにボールが入ると、四方八方にパスを配することができます。そしてポストから外のプレイヤーへのリロケーションパスは、3ポイントシュートをたいへん打ちやすくするものです

観戦していて、やはりポストプレイヤーを育てることの重要性を感じました。これは、ミニバスの指導に携わる我々にも責任があります。最近のミニバスプレイヤーの特に女子は、サイズのある子でも相手との接触プレイを嫌がる傾向があります。ポストで身体を張ってボールを受けて攻める、またはパスを出すといったことを繰り返し練習すべきだと考えます。さらに言えば、サイズがなくてもポストで頑張ることはできます。ポストでもらう力強さ（筋力や身体の大きさではなくメンタルの強さ）を育てたいものです。ぜひミニバス時代に身に着けたいプレイの一つです。

外からの3ポイントシュートが「スパッ」と決まるのはカッコいいものです。しかし、シュート（特に距離が長いものは）当てになりません。ゲームによって確率に大きな差が出ます。中を（特にポスト）如何について攻めるかが勝敗のポイントになります。

ポストプレイ（ポストでのもらい方も含めて）が際立っていたのは、東京成徳の田中選手でした。大会中に捻挫をしてしまい本調子ではありませんでしたが、上手さの片鱗をみました。続きは次号にて。